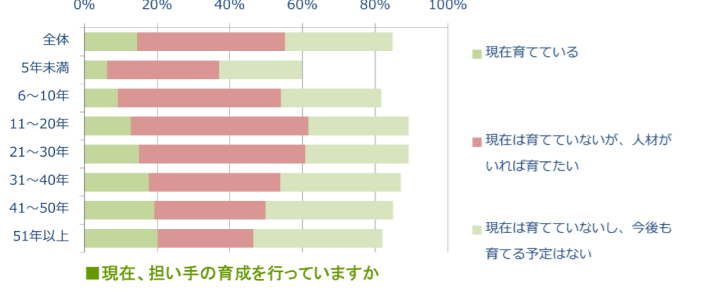
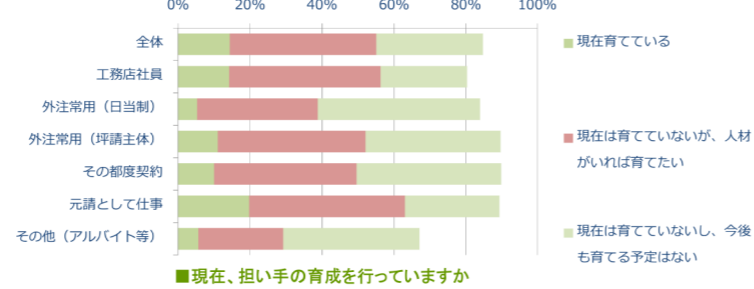


担い手育成状況 -現在育てている大工は14.4%。人材がいれば育てたい40.7%。

◆経験年数別



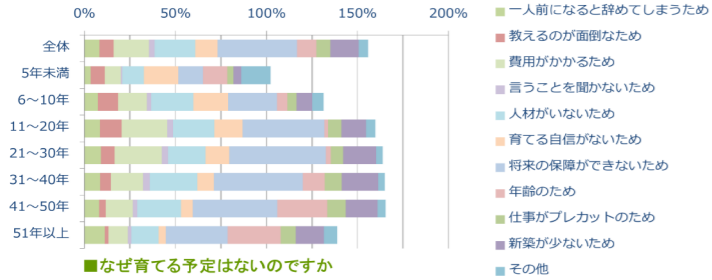
◆雇用形態別



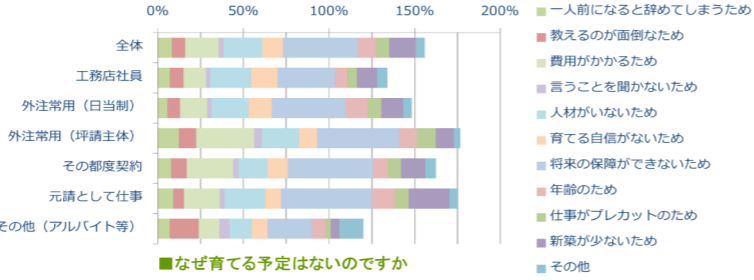
- 「現在育てている」と回答した割合は、経験年数51年以上が20.1%で最も高い。
- 「人材がいれば育てたい」と回答した割合は、経験年数11～20年が48.8%で最も高い。
- 「現在育てている」と回答した割合は、元請として仕事の大工が19.7%で最も高い。次いで工務店社員が14.2%。
- 「人材がいれば育てたい」と回答した割合は、元請として仕事の大工が43.3%で最も高く、次いで工務店社員で42.0%。

担い手を育てる予定はない理由 -将来の保障ができないため43.6%。

◆経験年数別



◆雇用形態別



- 大工全体では、「将来の保障ができないため」が43.6%で最も割合が高く、次いで「人材がないため」が22.4%、「費用がかかるため」が19.6%。
- 経験年数5年未満、経験年数41～50年および経験年数51年以上では、「年齢のため」の割合が比較的高い。
- 「将来の保障ができないため」は、元請として仕事が大工が52.9%。
- 「人材がないため」は工務店社員と元請として仕事が大工が23.9%。
- 「費用がかかるため」は外注常用(坪請主体)が大工が33.6%。

大工・職人の実態に関するアンケート調査

平成28年度版

省エネルギー施工技術者講習会
受講大工22,335人の回答

木造住宅・建築物の施工の中核的な存在である大工の不足が危惧されています。大工は、特に若い世代の就業者が少ないため高齢化が進み、年々減少傾向にあります。木造住宅の新築工事では、プレカットの普及により施工の合理化が進み、部材の墨付けや加工といった作業は大工の手から離れ、加工済みの部材の組立・取付が、今日の大工の主たる作業となりました。しかし、増改築やリフォームの現場では、大工が構造から造作・仕上げ、工事の進捗管理と工事を担う重要な役割を演じ、本来大工が備えるべき技術が不可欠となります。木造建築を理解し、木材の扱いなど関連する専門的な職能を備えた担い手を育成しなければ、人材の空洞化は一層深刻になることは明らかです。木造建築の担い手のあり方や育成の枠組みについて、包括的に検討・提言することが求められています。

そのような背景があるなか、木造技能者としての大工・職人の実態を把握するためのアンケート調査を実施しました。本資料は、平成24年度～28年度に実施した省エネルギー施工技術者講習会でのアンケート回収数44,576票の内、大工職22,335票について、その結果の概要をまとめたものです。

国土交通省補助事業

住宅省エネルギー技術講習会(・施工技術者講習会)・設計者講習会 HP▶<http://www.shoene.org>

省エネ基準への100%適合化に向け、大工・工務店の適正な断熱施工技術等の習得のため、施工技術者講習会および設計者講習会を開いています。

講習会は全国47都道府県で開催。受講対象者は地域の木造住宅生産を担う大工技能者や断熱施工技術者、設計者です。受講料：1,000円(別途、修了証代必要)



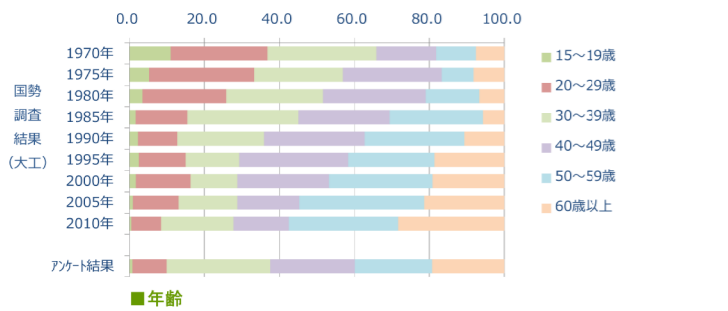
全国木造住宅生産体制推進協議会

事務局・一般社団法人 木を活かす建築推進協議会
〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F
TEL.03-3560-2882 FAX.03-3560-2878 HP:<http://www.kiwoikasu.or.jp>



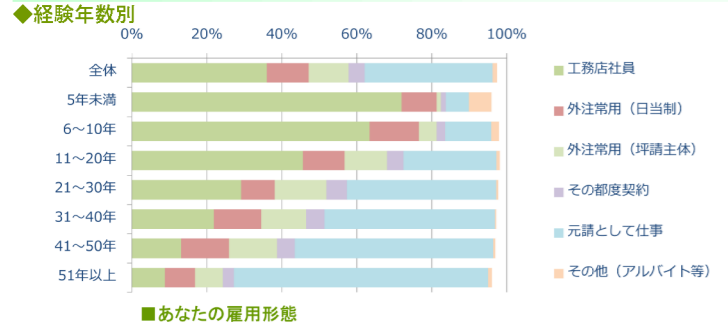
全国木造住宅生産体制推進協議会

年齢構成 - 30代、40代の割合が大きい。



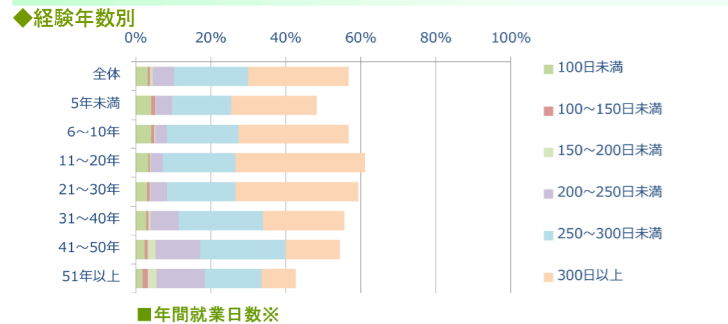
- アンケートに回答した大工の平均年齢は45.7歳。
- 60歳以上の高齢大工は19.2%。30歳未満の若年大工は9.9%。
- 国勢調査による大工の年齢層と比較すると、30代、40代の割合が高く、50代以上の割合は低い。高齢大工の引退が進んでいることが推測できる。

雇用形態 - 10年以下の60%以上が工務店社員。



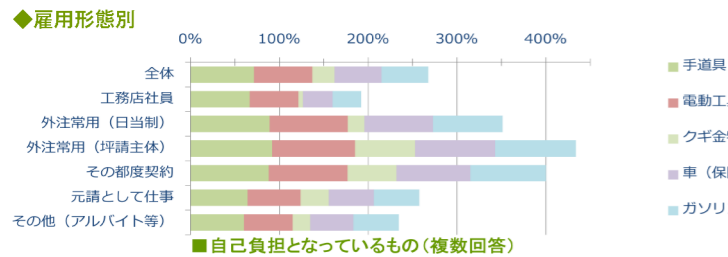
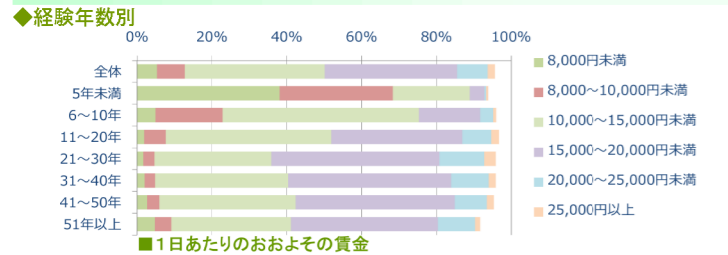
- 経験年数5年未満では72.0%が「工務店社員」の大工。
- 工務店社員の割合は経験年数が増えるにつれて縮小し、「元請として仕事」の割合が増大。
- 経験年数51年以上では67.8%が「元請として仕事」の大工。

年間就業日数※ - 経験年数21~30年、外注常用（坪請主体）で平均年間就業日数が最多。

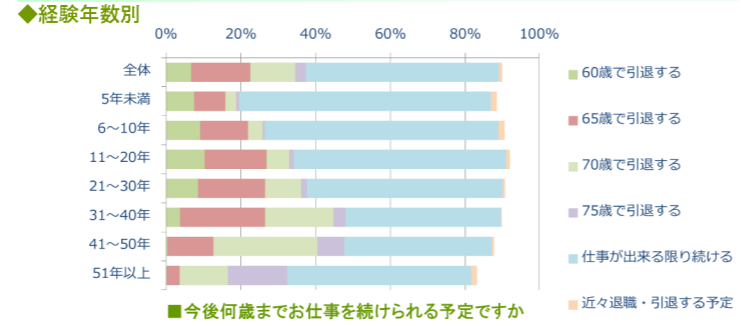


- 大工全体の平均年間就業日数は266.3日。
- 経験年数21~30年で平均年間就業日数が最も多く274.7日。
- 経験年数51年以上で平均年間就業日数が最も少なく238.6日。
- ※平成25年度アンケートから追加の設問(回答者数18,196人)

1日あたりの賃金・自己負担するもの（平成27年度回答のみ） -1日あたり平均賃金14,938円。

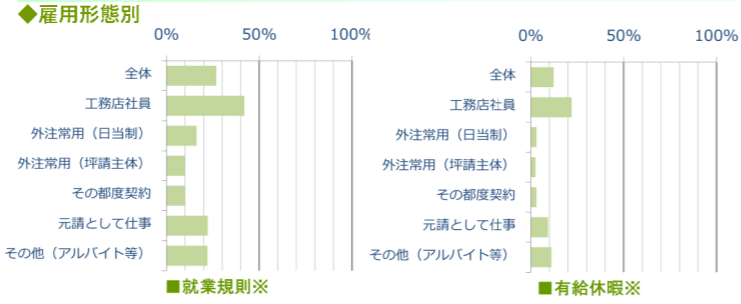


引退時期 - 「仕事出来る限り続ける」50%以上。



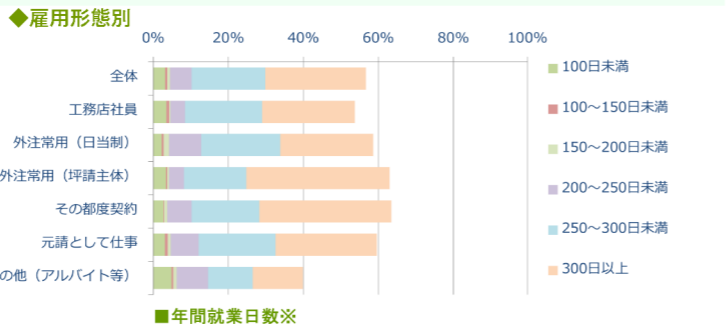
- 大工全体で「仕事出来る限り続ける」割合は51.8%で「65歳で引退する」が15.9%。
- 経験年数41~50年では「仕事出来る限り続ける」割合は39.5%で他の経験年数と比較して小さい。

就業規則・有給休暇※ -規則、有給無しが半数以上。

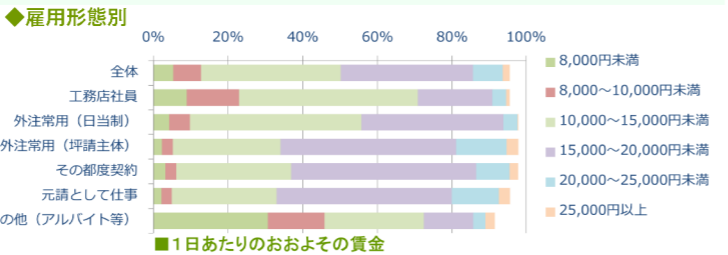


- 大工全体で就業規則が有るのは26.8%。工務店社員が42.0%で最も割合が大きい。
- 大工全体で有給休暇が有るのは12.2%。工務店社員が21.9%で最も割合が大きい。

※平成25年度アンケートから追加の設問(回答者数18,196人)

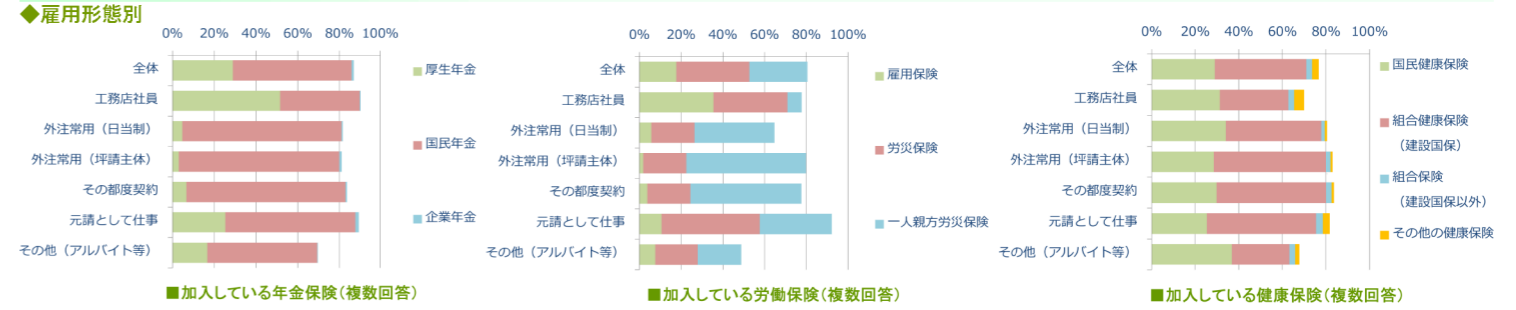


- 外注常用（坪請主体）の大工の平均年間就業日数は他の雇用形態と比較して最も多く276.2日。
- その他（アルバイト等）の大工の平均年間就業日数は他の雇用形態と比較して最も少なく240.8日。



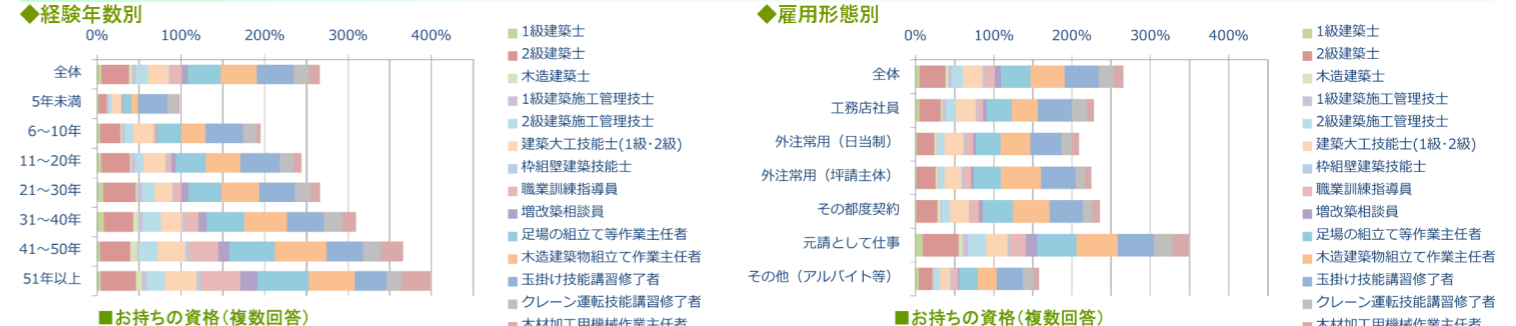
- 大工全体の1日あたりの平均賃金は14,938円。
- 経験年数別の平均賃金は、経験年数21~30年が最も高く16,308円。経験年数3年未満が最も低く9,889円。
- 雇用形態別の平均賃金は、外注常用（坪請主体）の大工が最も高く16,498円。その他（アルバイト等）が最も低く11,871円。
- 自己負担となっているものの割合の合計は、外注常用（坪請主体）が433.7%で最も大きい。この他にも社会保険料負担等があるため、独立した大工の実質の賃金や社会保障が十分であるとはいえない。

社会保険の加入状況 -年金保険86.8%、雇用保険17.7%、労災保険62.8%、健康保険76.6%。



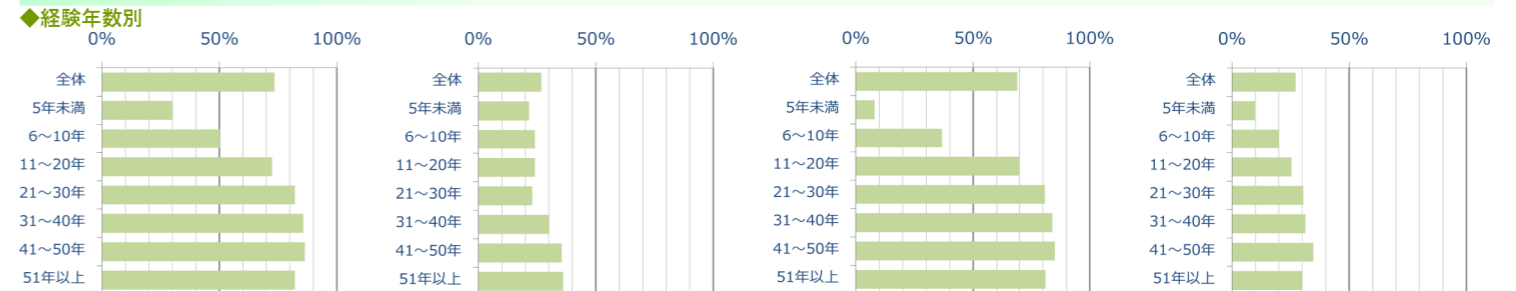
- 大工全体の年金保険加入の割合は86.8%。
- 工務店社員は厚生年金51.5%、国民年金38.1%の割合で加入。
- 工務店社員以外は国民年金が多数。
- 大工全体の雇用保険加入の割合は17.7%。
- 大工全体の労災保険（一人親方労災を含む）加入の割合は62.8%。
- 工務店社員の雇用保険加入の割合は35.4%。
- 大工全体の健康保険加入の割合は76.6%。
- 大工全体で、国民健康保険は29.0%、組合健康保険（建設国保）は42.0%。
- 工務店社員、その他（アルバイト）以外では、組合健康保険（建設国保）が多い。

資格の取得状況 - 足場、木建、玉掛の資格取得40%以上。経験年数が長く、元請の大工は資格数が多い。



- 経験年数5年以上は、「足場の組立て等作業主任者」、「木造建築物組立て作業主任者」、「玉掛け技能講習修了者」の労安衛法に関する資格の割合が高い。
- 経験年数を経るほど、資格の取得した割合は高い。経験年数51年以上の大工では、割合の合計は399.0%。

大工の技能レベル - 墨付け、和室造作技能は約70%。経験年数10年で技能レベルが一定の水準に達する。



- 墨付けができますか
- 大工全体の73.4%が墨付けができる。
- 経験年数10年を境に墨付け技能の割合が一定の水準となる。
- 新築の手刻み加工の仕事年1棟以上行っていますか
- 大工全体の26.8%が手刻み加工の仕事年1棟以上行っている。
- 和室造作ができますか
- 大工全体の69.1%が和室造作ができる。
- 墨付けと同様、経験年数10年で割合が一定の水準となる。
- 2x4工法住宅の施工ができますか
- 大工全体の27.1%が2x4工法住宅の施工ができる。
- 経験年数41~50年で34.6%と割合が最も高い。

仕事内容・収入等への満足度 - 入職5年未満、工務店社員で満足度が高い。



- 大工全体では、仕事内容の満足度は59.6%。収入等の満足度は34.7%。
- 満足度は経験年数5年未満が高く、経験年数20年以上は低い。
- 仕事内容および収入等への満足度は、工務店社員が最も高く、その都度契約の大工が最も低い。